

12月 給食だより



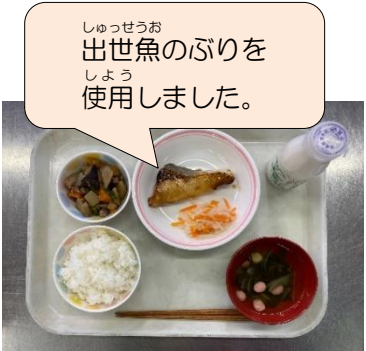
令和6年12月号
都立墨田特別支援学校
校長 朝日 滋也



今年も残り少なくなってきました。給食では、1年間を通して、日本の行事食を取り入れてきました。行事食とは、季節ごとの行事やお祝いの日食べる料理のことをいいます。行事食には家族の幸せや健康を願う意味がそれぞれ含まれています。年末からお正月にかけて、日本の行事食を食べる機会が多くあります。行事食を食べて、それぞれの意味を調べてみましょう。

令和6年に提供した行事食の給食

1月10日
【お正月献立】
ぶりの照り焼き
紅白なます



出世魚のぶりを使用しました。

5月2日
【こどもの日献立】
かつおめし
若竹汁



若竹汁とは、春の新わかめと春が旬の筍を使用したすまし汁です。

2月2日
【節分献立】
大豆と小魚の甘唐揚げ



豆は柔らかくしてから揚げました。年の数だけ食べて、1年の幸福を願います。

7月5日
【七夕献立】
七塔汁



そうめんを使用した七塔汁。

3月1日
【ひな祭り献立】
3色ひなゼリー



3色ひなゼリーはひしもちをイメージしました。

9月9日
【重陽の節句献立】
菊花和え



菊花和えは食用の菊を使用しました。

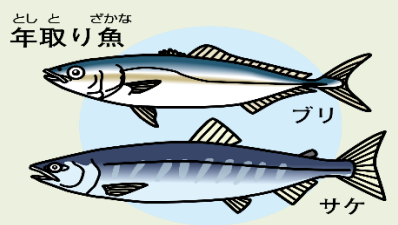
<12月と冬休み中の行事食> 冬至 (12月21日ごろ)



冬至は、1年で最も太陽の出ている時間が短くなる日です。昔から冬至の日に、「かぼちゃ」や「あずき」を食べて力をつけ、ゆず湯で身を清めて幸運を呼び込み、無病息災を願う風習があります。今年の冬至は12月21日ですが、給食では、前日の12月20日に冬至献立として、「かぼちゃの煮物」と「ゆず和え」を出します。

大晦日 (12月31日)

1年の締めくくりとなる日です。今年の苦労を断ち切り、新年への願いを込めて、年越しそばや「年取り魚」を食べる風習があります。「年取り魚」は地域によって異なりますが、ブリやサケが用いられます。



五節句とは…ほかの言い方
1月7日 人日の節句 (七草の節句)
3月3日 上巳の節句 (桃の節句)
5月5日 端午の節句 (菖蒲の節句)
7月7日 七夕の節句 (七夕の節句)
9月9日 重陽の節句 (菊の節句)